



大野市教育委員会たより

令和元年10月30日発行 第32号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月24日（木）午後7時～8時30分 場所：五箇公民館
対象者：五箇地区住民（出席者数7人）
次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎学校は最低1学年2クラスは必要と思っている。年頃になると気の合わない友だちが出来たりするので、クラス替えが出来ることが必要と思う。音楽、美術、技術、家庭などの教科に専任の教職員が配置できるような人数の規模にして欲しい。部活動に関しても子どもが自分たちのやりたいことを見つけられる規模にして欲しい。再編計画を進める中で「地区の核がなくなる」、「母校がなくなるから再編は嫌だ」などの反対意見が出ていたが、第一に考えて欲しいのは子どものことである。このことをこれまで以上に強く言って欲しい。再編はもっとスピード感を持ってやって欲しい。みんなが自分の子どもは関係ないと言っていたのでは、これからの小中学生のためにならないので、早めにやった方が良い。

⇒■今年再編の見直しについて、小中学校や保育所・認定こども園の保護者、地域の方々がどう思っているのかをしっかりと聞いていかなければならない1年と思っている。来年からは、計画の内容や再編の日程についてしっかりと考えていきたい。

◎部活動は、全国的に外部講師に頼んでいる状況と聞いている。大野市では、野球のスポーツ少年団やみんスポなどの取組みはいいなと思っている。そのような場所で、普段学校と一緒にいない子と会うのが良いと思っている。そのため、部活動はそれほど重要と思っていない。乾側小を仮校舎で建てることになった経緯は何か。建てる仮校舎の耐用年数は、乾側小が再編になったら、その校舎はどうなるのか。

⇒■乾側小は木造校舎で、市内の小学校ではこの校舎だけ耐震工事をしていない。これまで乾側地区では、学校の耐震や学校再編について、その時、その時で保護者や地区の方々が一生懸命考え、今に至っている。今、学校再編計画の見直しに取り組んでいるので、通常の校舎を建てるつもりはない。乾側地区では、現校舎を耐震工事してほしいという要望もあったが、工事後に教育環境として使い勝手が悪くなるため、リースで軽量鉄骨校舎を建てることできないかを検討している。このことについては、まだ議会には認められてはいない。今、再編計画の見直しに取り組んでおり、来年以降計画の検討に入るため、再編が進むまでのここ数年は乾側地区の子どもたちは乾側小に籍を置くことになる。耐震性のない現校舎で過ごさせるのは、非常に心配であり、何らかの形で安全を確保してやりたいと思っている。

⇒◎以前の計画では、乾側小の5・6年生が有終西小へ通うという説明を聞いて驚いている。

⇒■部活動については、陽明中では週3日以上、校外のクラブで一生懸命頑張っていれば、学校の部活に入らなくて良いことにしている。硬式野球やサッカー、トランポリンなどをしたいという時、学校で対応できない。

⇒◎野球やサッカーは人数を必要とするため、1つの学校では対応できないと思う。学校の先生は部活動を教えることで給料をもらっているのか。

⇒■給料はもらっていない。土日は少しであるが手当が付いている。

⇒◎乾側小は、下庄小や有終西小と一緒に勉強するという選択はなかったのか。

⇒■その方法についても検討した。下庄小は空き教室がなく、有終西小は無理すれば入れる状況である。年度途中で、他の学校に移動することは難しいと考えた。また、乾側小の独立性がなくなり、移動先の学校で肩身の狭い思いをさせたくないと考えた。旧蕨生小であれば、今の乾側小の形を残したまま、子どもたちは過ごせると思った。とにかく、子どもたちの安全安心を一番に考えて取り組んでいる。

◎学校の校区は決まっていると思うが、親が別の校区へ行きたいと考えた場合、選択が出来るのか。

⇒■違う学校に通いたい場合は理由が必要である。つまり、違う学校に通わなければならない理由が必要となる。例えば、有終南小校区の子どもの両親が働いており、昼間は家が留守になるため、学校が終わった後、有終西小校区の祖父母宅に預かってもらう時など、条件はいろいろある。校区を変更できる条件や手続きについては、市報10月号に掲載している。

⇒◎学校の人数が少ないから、人数の多い学校に通わせることは可能なのか。

⇒■条件が合えば通うことは可能である。今の規程では、そういう理由では校区を変更することは出来ない。学校の自由選択へは踏み切っていない。

◎市内の学校は相当年数が経っている感じである。校舎の耐用年数は何年ぐらいと考えているか。

⇒■国の減価償却を基準にすると、鉄筋コンクリートで約60年と示されている。耐用年数が近づいている校舎については、躯体の強度を調べ、長寿命化工事を行うなどの選択も含めて検討しなければならない。国では、長寿命化工事が可能である建物を築45年ぐらいを目処としている。新築工事の約7割の経費が必要と考えられている。



◎中学校の美術や技術、家庭などの教科における免許所有教員の配置状況の説明があったが、問題ないのか。

⇒■基本的には良くないことである。法的に良くないということではないが、英語の免許を持つ教職員が美術を教えるような場合があり、美術の得意な子どもたちにとっては専門の教職員に教えてもらった方が良いと思っている。

⇒◎音楽や美術、技術、家庭が義務でないのであればいいが、教科としてあるのに、免許を持っていない教職員がいないのは問題ではないか。

⇒■県教育委員会の講習を受けて、その教科を教える許可をもらっている。クラス数によって、教職員の配置人数が決まるため、開成中や陽明中のクラス数でぎりぎり9教科の教職員が揃う状況である。

⇒◎昔の勝原小では、校長と先生2人が交代ですべての教科を教えていた。1年生から3年生で1クラス、4年生から6年生で1クラスの2クラスだった。

⇒◎上打波小は、1・2年生、3・4年生、5・6年生の3クラスだった。

⇒◎多様な社会に未来を切り拓いていく子どもたちにとっては、学校は、音楽や美術などの分野に進む入口でもある。そうであれば、ちゃんとした入口にして欲しい。音楽の道に進む場合でも、その前に学校でその気付きがある。であれば、専門の免許を持っている教職員が配置されていないのは問題である。

◎中部縦貫自動車道が開通した後の人口推移は、どのように考えているか。

⇒■中部縦貫自動車道が開通することで、人口が目に見えて増えるという予測はしていない。市では、観光客である「ふれあい交流人口」と「定住人口」を合わせて、3万7千~8千人の規模が維持できるという考え方をしている。自動車道が開通し、道の駅が開駅し、産業団地も整備される中、その相乗効果で人口が増えれば良いが確かな数字は持っていない。

⇒◎増加も減少もなく、変わらないという考えか。

⇒■市が立てている人口の見込みは、国立社会保障・人口問題研究所という機関が見込んで数字を基にして

いる。自動車道や道の駅などによる効果は見込んでいない。基本は出生数と市外に出る人数、死亡者数で予測している。

- ◎全国的に少子高齢化になっている。子どもが少なくなり、学校も老朽化している。学校の分散による経費ロスが出ている。税収は増えない。再編は絶対すべきである。母校を残すべきだと言う人もいるが、五箇地区にも昔はたくさんの学校があった。市の財政を考えたら、早く取り掛からないといけない問題である。県内の他市でも学校再編は行っている。反対で再編がストップしているのは大野ぐらいではないのか。
 - ⇒■昨年度、学校再編に取り組んでいる県外の市町を視察したが、どこの地域も10年ぐらいかけて再編を進めていた。これまでの再編は、地区に1つずつ学校が残ったが、これからは地区をまたいだ再編となっていくので、慎重にならないといけないと考えている。
 - ⇒◎五箇地区には学校がないが、タクシーの送迎で学校へ行っているので安心である。
 - ⇒■再編で、保護者の一番心配なことは通学である。
- ◎学校再編において、物理的な要因はみんなが理解している。中学校1校、小学校2校が時期尚早と思う者、校区と自治活動をイコールと考える者などがあったため、再編計画が反対された。児童生徒の考えも合わせて説明すれば、地区には理解されると思う。
- ◎小学校区と中学校区が違うため、小学校の同級生が中学校で別々になる。そのため、当時の自分の子どもも敏感であったため、可哀想だった。中学校が1つになればそういうこともなくなると思う。
- ◎再編計画の見直し計画を作り、その計画に基づいて再編したとしても、再び再編しなければならない状況となる場合がある。教育費の大半はハード整備に係る経費だと思う。再び再編する状況となれば、整備した施設は無駄になる。人口予測を見ながら、中学校1校、小学校2校の再編方法についても再度検討して欲しい。
 - ⇒■早急に見直し案を検討しないとイケないと考えている。それぞれの方向性について、メリット、デメリットを説明しながら、提案していきたい。
 - ⇒◎賛成や反対の両方の意見を聞いて、その間を取って再編計画を策定すると、絶対後で、また見直しをしないとイケなくなる。学校を無くすなど言っている人の意見を聞きながら、教育のレベルをある程度、担保する計画案はいい案ではない。本当にいい計画案を選んで欲しい。
 - ⇒■計画案をしっかりと検討し、説明できるようにしていきたい。この意見交換会は延べ40箇所を回る。多くの方々の意見をしっかりと受け止め、計画を検討していきたい。
 - ⇒◎今年度で計画が出来るのか。
 - ⇒■意見交換会は11月末に終わる予定である。その後、すべての意見と小中学生のアンケート結果なども含めて総合的に取りまとめる。来年度には、検討するための組織を立ち上げ、計画案を作り、再度、説明に回る予定としている。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

